

【天気予報及び概況】

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)
2018年	19.1	24.2	14.7	203.5
2019年	20.0	25.7	14.6	96.0
2020年	20.0	25.2	15.5	58.5
1981~2010年	18.8	23.5	14.6	118.6

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

水稲

1 早期水稲の除草剤散布

- 散布後3~4日間は湛水を保ち、田面を露出させないようにして下さい。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないようにして下さい。
- 藻類の発生が多い場合は薬剤の拡散が妨げられるので、ジャンボ剤、フロアブル剤、豆つぶ剤の散布は避けましょう。

2 普通期栽培の育苗

育苗期間は稚苗で約25日です。田植予定日に合わせて計画的な育苗作業を行って下さい。

(1) 床土の準備

育苗用土は通気性が良く、適度な保水性がある用土を用いて下さい。市販の粒状培土を使用する場合は1袋で5~6箱分です。

(2) 塩水選・種子消毒

塩水選の比重は、うるち1.13(水100に食塩2kg)を使用して下さい。種子消毒はトリフミン乳剤300倍+スミチオン乳剤1,000倍で24時間浸漬して下さい(浸漬時間は厳守)。

(3) 浸種・催芽

浸種は20°Cの水なら5日程度とし、浸種期間が短いと発芽が不揃いになります。浸種・催芽の目安は種籾があめ色となり、ハトムネ状態(幼芽が1mm程度出た状態)となれば完了です。

(4) 播種量

催芽籾で1箱当たり180gまでとし、厚播きは避けて下さい。

(5) 灌水・覆土

播種後、苗箱に適量灌水し、その後籾が隠れる程度覆土して下さい。

(6) 温度管理

出芽期は30~32°Cで保温し、緑化期は15~25°C、硬化期は10°C~20°Cと徐々に外気に馴らすようにします。シルバーポリトウの被覆は高温となりやすいので、温度管理に注意して下さい。

<松本>

【野菜】

夏秋野菜

5月は、果菜類の定植時期となります。この時期の天気は、数日の周期で変わることが多いので、苗の生育や気象情報に留意して適期に定植して下さい。

1 定植のポイント

- 作付けする場合は、日当たりが良く、耕土が深く、保水性と排水性の良い場所を選び、定植1か月前に堆肥と石灰資材を施用し、深く耕しておきます。使用する堆肥は発酵が十分進み、臭いの少ないものにして下さい。施用量の目安は、堆肥は200kg/aで石灰資材は20kg/aです。
- 土づくりができれば、野菜が生育するのに必要な肥料を定植1週間前に施します。濃度障害がおきにくい菌根甘や園芸ぼかし等の有機質肥料を中心に窒素成分で2kg/a施用し、十分に土となじませて下さい。
- 定植は、天気が良く暖かい日を選んで行います。苗は、きゅうりが本葉3枚程度、なす、トマト、ピーマンが1番花(房)の開花始めを目安とし、適期に定植します。植え付けは根鉢を崩さないよう丁寧にいき、深植にならないようにします。定植後はすみやかに仮支柱を立て、充分灌水を行います。
- 定植後は、スムーズな活着を促すため、根鉢を乾燥させないように灌水を行います。1週間程度で活着するので、それ以降は灌水を控え、深く根を伸ばさせます。
- また、小さい苗を植えることが多く、寒さで苗が傷む場合があります。防寒対策として、保温キャップや肥料袋による風よけ等をして苗を守りましょう。

<山口>

【栗】

1 接木後の管理

3月中旬~4月上旬に接木を行なった樹では、次の点に注意して下さい。
①芽が動き出しても穂木は動かさない。②新梢が折れないよう支柱を立て誘引をする。③生育促進のため台木の芽かきを行う。④穂木に十分な光を当てるようにする。5月~8月頃まではこまめに上記の作業を実施して下さい。

2 病虫害防除

(1) コウモリガ

前年秋に地面に産み落とされた卵は5月上旬頃孵化し、付近の雑草に中間寄生後、クリ樹に這い上がり食入します。そのため4~5月に株元周辺の草刈りを徹底し被害の軽減を図りましょう。

(2) クスサン

孵化してしばらくの間は集団で葉を食害するため、この時点で見つけ次第捕殺しましょう。大きく成長したものは防除が困難となります。

<守屋>

【花き・花木】

シキミ

春芽の伸長期になります。病虫害の発生が多くなる時期です。風通しの悪い環境で多発するので、垂れ枝や下枝の整枝・剪定をして風通しを良くして下さい。

ダニ、アブラムシ、グンバイムシ、アザミウマ、ハマキムシ、斑点病の防除として、アドマイヤーフロアブル2,000倍、カルホス乳剤1,000倍、トップジンM水和剤1,000倍を混用散布して下さい。

アブラムシ、グンバイムシ防除のダイリーク粒剤(12kg/10a)は、5月中旬~6月に使用し、2mを超えない木で利用して下さい。

茶園など他の作物が隣接して栽培している場合や、ミツバチの巣箱の近くでは農薬の飛散に十分注意して下さい。

<安藤>

【茶】

一番茶摘採(5月上~中旬)は、茶工場の予約状況に留意し、計画的な摘採を行いましょう。手摘みした園ではすぐに剪枝せず、遅れ芽を10~14日程度おいて摘採して下さい。

摘採後は、できるだけ早く搬入し、蒸らさないようにしましょう。

1 防霜対策

凍霜害は、茶の気象災害で最も被害が大きくなります。茶の耐寒性は、萌芽に向けて徐々に低下してくるので、低温に遭遇する時期と低温の程度により被害程度も異なります。気象予報の霜注意報に注意を払いましょう。

【凍霜害後の処理】

生育ステージ	被害の様相	処 理
萌芽期~ 2葉開葉未満	被害の程度にかかわらず	そのままにしておく
2葉開葉~ 4葉開葉	部分的で、被害部と無被害部が明瞭な場合	そのままにしておき、拾い摘み又は部分摘採を行う
	部分的で被害部と無被害部が明瞭でない	被害芽率が高い 被害芽率が低い
摘採期直前	部分的被害	拾い摘み又は部分摘採する
	全面的被害	刈り捨てて、一茶半、二番茶に期待する

被害が大きく摘採が大幅に遅れる場合は、再萌芽してからえひめ有機茶グリーン1号100~120kg/10a施用する。

2 チャトゲコナジラミ対応

チャトゲコナジラミの多発で、すす病が著しい場合は、摘採後に深刈りし、卵や幼虫の寄生部位である下葉を除去します。この害虫の天敵シルベストリコバチは農薬に弱いので、他の作物に散布した農薬が茶園に飛散しないよう注意して下さい。

3 一番茶後の整枝

良い二番茶(6月下旬)を摘採するために、一番茶の遅れ芽を除去する程度に浅く摘採面を整えましょう。

<松本>